



# いずみ

No.53

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 23



《Passage》

藤沢 レオ

(2 ページに「作者の言葉」)

## 自作自選 23 作者の言葉

2013年7月、苫小牧市美術博物館開館時に市民団体からの寄贈作品としてロビーに設置されたこの作品は、2457人からの寄付金と共に、将来に向けるその想いを背負いながらの制作でした。

種子の造形をモチーフに、死をも見つめながら連綿と引き継がれる生命の尊さ、輝かしさを象徴的に表現しました。

(藤沢 レオ)

タイトル：「Passage」

制作年：2013年

素材：コールドレン鋼、真鍮

サイズ：W1500×D1500×H3000 cm

(台座含む)

設置場所：苫小牧市美術博物館ロビー

## 連載 宮の森の四季 23

### 本郷新記念札幌彫刻美術館

#### 久しぶりの宮の森

業務係 加藤 正浩

木々の梢も色づき、芸術の秋の訪れを感じます。今年4月に着任しました加藤と申します、広報業務等を担当しています。

宮の森地区は小学生（宮の森小学校卒業）の時に数年住んでいたこともあり懐かしく、愛着のある地域で働けることを嬉しく思いながら日々の業務に取り組んでいます。

当館は自然豊かな立地ということもあり、庭園にエゾリスを見つけて心が和むこともあります。美術館の業務や本郷新についても勉強を重ねていき、「札幌彫刻美術館だからこそできる」取り組みを行い、当館のPRに繋げていきたいと考えています。地域の皆様に愛され、何度でも足を運びたいような美術館を目指して日々努力していきたいと思います。ご来館の際はぜひお気軽にお声がけください。皆様どうぞよろしく願いいたします。



## 秋風に《石川啄木像》を訪ねる

友の会副会長 大内 和

秋風が心地よく吹き渡る大通公園を散策しながら、ふと西3丁目の木陰に鎮座する石川啄木の像に立ち寄ってみた。

和服姿で、やや小首をかしげ、右ひじを椅子の袖にもたせかけ、左手は膝の上に軽く置き、何か思案気な表情をしている。髪は七三に分けられ、多くの写真で見るとおなじみのヘアスタイルである。像の作者は坂坦道。1981年（昭和56年）、札幌在住の文学関係者らによって建立されたという。脇の歌碑には札幌の書家、中野北暎の筆で札幌を詠んだ有名な歌が刻まれている。

しんとして幅広き街の

秋の夜の

玉蜀黍の焼くるにほいよ

啄木が札幌に来たのは明治40年9月14日。そんな思いが筆者を啄木像に向かわせたのかもしれない。

啄木研究家で札幌在住の作家、好川之範は「啄木の札幌放浪」（1986年刊）で啄木来札の瞬間を次のように書いている。

「函館を発った石川啄木は、一路、秋の気配の忍び寄る札幌に向かった。翌14日、午後1時を回って札幌駐車場の駅頭に降り

立つが、あいにく札幌は雨模様。そのとき、啄木の風采はこんなである。頭髮、丸刈り。服装、色褪せた羊羹色の紋付羽織。所持品、ちっぽけな鞆が一つ」

駅頭に迎えたのは向井永太郎と松岡政之助の二人。向井は道庁林務課に勤め、函館で大火に遭った啄木に札幌移住を勧めた。一部解説文には向井夷希微とあるが、夷希微は詩人としてのペンネーム。また、松岡は明治30年代、東京の図書館で在京中の啄木と会い、交流を深め、当時はやはり道庁に勤務していた。

啄木が札幌の駅頭に足を下ろしたとき、札幌はどんな街だったのだろうか。日記に啄木は札幌の印象をこう記している。

「札幌は大なる田舎なり、木立の都なり、しめやかなる恋の多くありそうな都なり、路幅広く人少なく木は茂りて蔭をなし人は皆ゆるやかに歩めり（中略）札幌は秋意漸く深きなり」

しかし、啄木はわずか13日間の滞在で小樽へ去る。

「札幌に かの秋われの持てゆきし しかして今も持てるかなしみ」の歌を残して…。

## 友の会ホームページへの接続 15,000 件到達

### 閲覧件数 3 万 3 千を超える

### 海外からのアクセスも

ホームページ担当 細川 房子

会報「いずみ」と並んで友の会の活動ぶりを広く知ってもらう目的でインターネット上にホームページ（HP）を開設していますが、そのHPへの“訪問者”がこの8月で1万5000件を超えたことが解析データで分かりました。現在のようなスタイルのHPになってからの実績ですが、思わぬ“視聴率”の高さに担当者としても更なる内容充実への意気込みを感じています。

友の会がインターネットに HP を開いたのは意外に早く、2002年（平成14年）1月発行の会報「いずみ」創刊号にホームページ立ち上げたことが載っていて、第5号（03年1月）には「（昨年）7月にお見え以来、700人のファンが見ていただきました」とのコメントがついています。つまり今年で13年の歴史があるページということになります。しかし、専任者不在などでページの更新も思うように進まず、2008年になって専任担当者が決まり、以来、内容の充実や友の会活動の速報性重視など改革を図り、11年春にはホームページ表紙のレイアウト一新ほか大幅な内容変更を行い、現在のスタイルに落ち着きました。

ページは大きく「会の案内」「会の活動」「入会案内」「会員のページ」「街なかの美術館」などで構成されています。「会の案内」

には会の目的、活動内容のほか会の沿革、会長プロフィールなど、「会の活動」では彫刻清掃活動の様子や彫刻調査活動、行事報告など会の動き全般をその都度アップ（載せ）しています。また、「会員向け」ページでは会報「いずみ」の既刊号が創刊号（2002年）から最新号までPDF形式で読めるのも自慢。さらに、札幌市内に点在する全彫刻作品を解説とともに見ることができる「街なか美術館」もお目当てページと言えるでしょう。

こうした HP の内容の深さがページへの訪問者数の急増につながっていると見られます。これら訪問者が実際にどのくらいのページを開いたかを示す“閲覧数”はすでに3万3400件となっています。理由は不明分かりませんが、海外からのアクセスも多く、米国（1118件）、中国（459）、ロシア（298）に交じってウクライナ（658）が目につきます。

閲覧と同時に彫刻にまつわる問い合わせも多く、友の会のオフィシャルページとしての役割を果たすHPを目指します。

札幌彫刻美術館友の会



レナード・バーンスタインの酒樽



本誌40号（83）「平成13年のコンクワート展」の巻頭ページ（2002年）に2002年（平成14年）の「バーンスタインの酒樽」が掲載された。この作品は、札幌市にある街なか美術館に展示されている。この作品は、レナード・バーンスタインの自伝的小説「ジャズ」に基づいて制作された。この作品は、バーンスタインの音楽家としての側面を表現している。この作品は、札幌市にある街なか美術館に展示されている。この作品は、レナード・バーンスタインの音楽家としての側面を表現している。



友の会 HP アドレス

<http://sapporo-chokoku.jp>

## レポート

### 彫刻美術館友の会主催バスツアー

## 「ハルカヤマ藝術要塞」鑑賞と小樽の魅力探訪

### 好天に恵まれ山の芸術と海の味覚を堪能

友の会主催のバスツアー「『ハルカヤマ藝術要塞』鑑賞と小樽の魅力探訪」は8月22日に行われ、晴天に恵まれる中、バス一台満席の58人が参加、海山に過ぎゆく夏を惜しんだ。

小樽・銭函の「ハルカヤマ藝術要塞 2015」に次いで小樽港から遊覧船で祝津へ。ダイナミックなニシン定食を味わい、青山別邸と並ぶ白鳥家番屋見学など、旅の思い出を参加した中から篠崎正明さん、高橋ひろ子さんに感想を寄せてもらった。



#### 緑豊かな芸術の森で森林浴満喫

篠崎正明（会員）

「ハルカヤマ藝術要塞」という野外展示のある「芸術の森」を鑑賞、散策は緑豊かな森林浴にちょうど良い。

山道の両側に様々なアートが現れる。木立に張り巡らされた巨大な「蜘蛛の巣」が白い細目のロープを使った幾何学模様。相対的に見るものが小さくなり、この大きな蜘蛛の巣に絡まれるような錯覚さえ覚える。山道の先は空を覆い隠すような木の枝葉。その中を魚のオブジェが泳いでいる。ぽっかり空いた穴のような青空。まるで海の中から海面を見上げた時のような大空の景色、光が見える。プレハブの小屋では韓国の芸術家の作品が並び、国際的な展示会である。バラの花びらを繰りぬいた板を重ねた作品の、のぞき穴からは遠近感で実物より小さく来て、その長さからは内視鏡の画面を思い出した。

有名な芸術家、「まともな」アート作品はあったが、門外漢の私にはよくわからない。でも、予想以上に楽しめる場所であった。

#### 初期漁村のたたずまい感じた祝津

高橋ひろ子（会員）

祝津港へ向かう遊覧船では、国立公園にも指定されている変化に富んだ美しい海岸風景に魅了された。船のデッキでは、カモメに餌をやる楽しい声が行き交い、皆の心がハルカヤマアートに和らげられた様子だった。

港に着くと「この浮輪もアートね」という声が耳に。そこには、漁で使われたであろう浮き輪と網が無造作に置かれ、大仕事を終えた後の風格が港全体を輝かせていた。

祝津の街は、小樽市内のような賑わいはないが、海岸沿いにニシン漁家の住宅、番屋、倉庫などが建ち並び、北海道の初期漁村集落の様子を味わえる素朴な地域だった。中でも明治10年代築の白鳥家番屋は、主人と漁夫の住居部分が大屋根で一体になっており、小樽市指定歴史的建造物に触れる事の出来る体験となった。白鳥番屋で行われたパンフルート・ライブ。パンフルートの音が、祝津の海岸から大海原へ流れて行くのを、私たち一行は見送ることとなった。

## 暑い中、友の会の彫刻清掃真っ盛り

どの像も涼しい水を浴びて気分一新

10年ぶり

ケプロン・黒田像を清掃  
通行人も飛び入り参加

札幌・大通公園の西10丁目にあるホーレス・ケプロンと黒田清隆像の洗浄作業が8月22日、友の会の手で行われた。



作業には14人が参加。両像とも台座を含め地上から6mもあり、ポールを継ぎ足した先に会自慢の高圧洗浄機のノズルを取り付けての作業だったが、たまたま通りかかった「助っ人」の飛び入り応援もあり、「札幌の偉人」は1時間余りで日ごろの汚れをすっかり洗い流してさっぱりした。

清掃には大通高校の女生徒たち2人が初めて参加、台座など細かな部分もきれいに汚れを落とし、「彫刻がきれいになって嬉しい」「とても楽しかった」と満足げ。最後に高橋淑子会員が彫刻

の解説を行い、ケプロン、黒田の功績などについて知識を深めた。

この像の清掃は友の会にとっては2度目で、10年前の清掃では台座の石組みに亀裂があり、台風や地震などでの倒壊の危険があることを見つけ、管理者の札幌市に指摘、市が補修を行った経緯もある。

### 親子で彫刻水洗い 中島公園の山内作品も

大通公園の彫刻清掃が行われた同じ8月22日、中島公園でも山内壮夫の《笛を吹く少女》など4作品の彫刻清掃があった。

この日は同公園管理事務所が主催した野菜作りに参加した親子20人が友の会の呼びかけで彫刻洗いに汗を流した。

園内にある山内作品3点を3組の親子がそれぞれ1点ずつ受け持ち、歯ブラシとぞうきんを使って彫刻を水洗いし、最後に全員で《笛を吹く少女》に水をかけながら解説を聞いて終了。参加した5歳から10歳くらいまでの子供たちは彫刻に触

ったりしながら大はしゃぎだった。(長峯)

### バースタイン先生も 汚れを落としてさっぱり

昨年中島公園にお目見えしたばかりのバースタイン像の清掃も8月4日、友の会の手で行われた。



昨年、コンサートホール・キタラの前にお目見えしたPMFの創始者でもあるレナード・バースタイン先生の像はカラスやハトの止まり木代わりされているせいか頭部や肩に白い鳥の糞が目立っており、汚れがひどくなるばかり。高さ150cmほどの等身大の像で、台座の幅が狭く上がれないので、脚立をしっかりと押さえてもらいながら、バケツとモップで丹念に水洗いをして汚れを落とした。

あわせてこの日は同公園の山内壮夫《猫とハーモニカ》に5年ぶり、2回目のパーマシールド塗装も行った。(橋本)

## 緊急開催！！ シンポジウム 2015

## 屋外彫刻保全研究会と共に「野外彫刻を創る・守る」

10月4日 道立近代美術館講堂で

彫刻美術館友の会が主体となって東京・武蔵野美術大教授などを中心に組織している「屋外彫刻調査保存研究会」の専門家などと彫刻の補修・保全問題を語り合うシンポジウムの開催が急浮上、10月4日、道立近代美術館講堂で開かれることになった。会員はもちろんのこと会員外にも広く呼び掛けての参加を期待している。参加無料。

友の会がシンポジウムを主催するのは2010年、中島公園にある《木下成太郎像》の保全に関してして開いた「北の彫刻」シンポジウム以来。このシンポジウムで特別講演をした武蔵野美大・黒川弘毅教授が屋外彫刻調査保存研究会の事務局長を務め、この秋、同会が札幌で研究集会を行うことから、急きょ、シンポジウム開催が決まった。

シンポジウムは別掲プログラムで



札幌・円山動物園の《よいこつよいこ》も63年経ち、すっかり劣化が進んだ。

行われるが、彫刻をめぐる制作者の立場、保存管理する側からの問題点などを互いに出し合い、市民文化としての彫刻芸術をどのように守り、育てていくかを話し合う。参加者はいずれもその道の専門家であり、議論の深まりが期待できそう。

## シンポジウム 2015

## 「野外彫刻を創る・守る」

## プログラム

総合司会 寺嶋弘道（道立近代美術館学芸副館長）

午前の部（10:00～）屋外彫刻調査保存研究会札幌集会

開会挨拶 橋本信夫（友の会会長）

挨拶 藤嶋俊會（調査保存研会長）

基調講演 「北海道における彫刻の歴史」  
田中修二（大分大教授）

研究発表 「彫刻の保存について」  
黒川弘毅 高橋裕二 高橋大作

午後の部（13:30～）パネルディスカッション

基調講演 橋本信夫

パネラー 篠崎未来 村上道子 奥井登代  
國松明日香 後藤信夫 川上佳津  
渡辺行夫

閉会挨拶 大内 和（友の会副会長）

（敬称略）

## 事務局日誌

▼5月27日＝彫刻美術館訪問(シンポジウム・講演会協力要請)▼  
円山動物園訪問(《よいこつよいこ》補修問題)▼札幌市文化局訪問(彫刻劣化対策など)▼6月10日＝大通公園《漁民の像》清掃▼  
11日＝定例役員会(エルプラザ)野外彫刻シンポジウム計画など▼  
22日＝市文化局で彫刻地図コンテンツ説明▼26日＝道庁赤レンガ庁舎前庭で彫刻清掃▼7月5日＝かもくま祭参加(中島公園)▼  
8月9日＝定例役員会(エルプラザ)▼3,4日＝《猫とハーモニカ》塗装、バーンスタイン像清掃(中島公園)▼9月10日＝定例役員会(エルプラザ)

## 編集後記

▼当友の会のホームページへのアクセス数が1万回を超えたと聞き、担当の細川房子さんに筆を取ってもらった▼1万回という数字は細川さんが受け持っていた数字のようで、調べてみると友の会のHPはこの会報が創刊した2002年には発足したよだから、その先見の明には恐れ入る▼今やHPは会の活動を伝える有力武器となった。(大内)

札幌彫刻美術館友の会  
会報「いずみ」 No.52

2015年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」52号 目次

自作自選22 《SNOWFLAKE》	國松希根太	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季22 「街角の凹み」展	樋泉綾子	2
風見鶏「市民の夢をかなえた美術博物館」	荒川忠宏	3
寄稿「あるべき保守管理システムを求めて」	黒川弘毅	4
寄稿「旧真駒内緑小施設まこまる誕生」	永喜多宗雄	5
友の会ニュース		6-7
2015年度友の会総会 彫刻清掃活動再開 彫刻学習部会見学会 会報合本図書館へ寄贈 札幌市文化局など訪問		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

#### ■「田上義也と彫刻美術館」

10月3日(土)～11月29日(日)

建築家・田上義也が当館本館の設計に込めた意図を探ることにより、当時の札幌で求められていた美術館像を考察する。図面、模型、写真などに加え、開館当初の展示を一部再現。当時の時代背景の中で当館が担っていた役割を検証する。

#### ■コレクション展 「ふれる彫刻」12月5日(土)～4月10日(日)

所蔵品の中からブロンズ作品を中心に展示し、手で触れて感触を味わいながら彫刻に親しんでもらう。また、地元作家による手で触れたり、遊んだりできる作品を出品。

### 記念館

#### ■ミニコレクション展

本郷新の描いた山々

開催中 10月18日(日)まで

ちょうこく動物園

10月20日(火)～4月24日(日)

本郷新が馬、牛、鳥などの動物をモチーフに制作した彫刻などを展示。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>